



おおきな きがほしい

さとうさとる 文
むらかみつとむ 絵

偕成社 1971年 1000円

大きな大きな木があるといいな。大きな木にはしごをかけて、その上にぼくの小屋を作って、妹のかよちゃんを呼べるようにつりかごを作って、その上にりすの親子が住んでいて…。かおるのすてきな木への思いは、どんどんふくらみます。



おしゃべりなたまごやき

寺村輝夫 作
長新太 画

福音館書店 1972年 1100円

目玉焼きの大好きな王さまは、遊び時間にお城のにわとり小屋の鍵を開けてしまいます。すると、小屋から出てきたにわとりたちが、王さまを追いかけて城中が大騒ぎになります。にわとり小屋を開けた犯人捜しが始まりますが…。



おそばのくきはなぜあかいーにほんむかしばなしー

石井桃子 文
初山滋 絵

岩波書店 1954年 880円

おそばとむぎが大きな川のそばで話をしていると、おじいさんが自分を向こう岸に渡してくれと頼みます。むぎは断りますが、おそばはおじいさんを背負って、凍えるように寒い川を渡ります。おそばの足は真っ赤になってしまいました。他に「おししのくびはなぜあかい」「うみのみずはなぜからい」が入っています。